



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/16 (月)	+ 800	+ 900	+ 1,700	国庫短期証券発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 37,200		日: 鉱工業生産 (前年比) (8月)
10/17 (火)	トン	+ 3,000	+ 3,000			CP等買入 + 4,000	米: 鉱工業生産 (9月)
10/18 (水)	▲ 1,000	▲ 10,000	▲ 11,000	国債発行 (20年)			米: 地区連銀経済報告 (ページブック) 公表 欧: ユーロ圏CPI (9月)
10/19 (木)	▲ 1,000	+ 5,000	+ 4,000				日: 日銀地域経済報告 (さくらレポート) (10月) 米: パウエルFRB議長、講演 米: 新規失業保険申請件数 (14日終了週)
10/20 (金)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	国庫短期証券発行・償還 (1Y)			日: 全国CPI (前年比) (9月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,400億円増加の538兆2,100億円から始まった。その後、12日には源泉税揚げ、国債発行等の要因により、537兆2,200億円まで減少。週末となる13日には、年金定時払い等により、545兆4,700億円 (速報) まで増加し越週となった。

無担保コールON物は週初▲0.030%から始まった。その後は横ばい圏で推移し12日に同金利は▲0.029%となった。週末となる13日には、積み最終日の調整もあり、取り手の調達意欲は旺盛で、同金利は上昇し▲0.019% (速報) となった。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.050%~▲0.010%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、19日に日銀地域経済報告 (さくらレポート、10月)、20日に全国CPI (9月) の公表などがあり、海外では18日に米地区連銀経済報告 (ページブック) の公表、19日に米パウエルFRB議長の講演などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

<レポ>

足許GCは週初▲0.12%~▲0.11%の出合いから始まった。12日の取引では▲0.14%~▲0.12%に低下したが、3m短国の入札があった13日取引では、後場▲0.10%近辺まで上昇した。SC取引は2年438~453回債、5年149~162回債、10年350~372回債、20年180~185回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約9,800億円で、週間償還額4,600億円を上回った。発行市場は、期明けの発行再開の流れを受けて、鉄鋼や石油等の一部業態で大型の発行が見られた。一方、ABCPや一部企業で大口の償還が見られたこと等から発行残高は先週末時点の25兆1,198億円から10月12日時点で25兆809億円に減少した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。12日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0% (前回0%)、平均落札レート0.011% (同0.016%) であった。

来週の償還額は約4,700億円となっている。発行市場は大口の償還も少なく落ち着いた展開を予想する。発行レートは期内物を中心に0%近辺での出合いが中心となるものの、金融政策修正の警戒感等から期越えの案件についてはレート水準が定まりにくい展開を予想する。

<TDB>

13日の3M (1188回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1824% (前回債▲0.1955%)、平均落札利回り▲0.1972% (前回債▲0.2177%) となった。

来週は19日に1Y、20日に3Mの入札が予定されている。